

対象事業	質問項目	担当課	回答	備考																															
人権講演会	【2】・参加者の年代別、性別、地域別の参加率を知りたい。	人権啓発センター	参加者アンケート結果より（来場者数180人、回答者119人、回答率66.1%） 【年代別】 10代：3.4%、20代：0.8%、30代：2.5%、40代：12.6%、50代：24.4%、60代：31.1%、70代：21.8%、80代以上：4.2% 「性別」「地域別」の把握はしておりません。																																
丹の里人権のつどい	【3】・A評価であるが、特に学校・家庭・地域の連携・協働の視点においてはどのような工夫や成果があったのか。		本事業（人権のつどい）については、丹波市人権・同和教育協議会など関係団体と共催で実施しており、それぞれの所属メンバーをはじめとして幅広く参加を呼び掛け、参加していただくことができています。 また、実施にあたっては、打合会を開催し、取り上げるテーマなどを共有しながら内容について検討するなどし、来場者に満足していただける内容となるよう工夫しながら進めております。 アンケート結果（回収率74.7%）では、平均満足度が、中学生作文表彰・朗読 89.7%、人権活動事例発表 71.2%、トーク＆コンサート 89.9% となり、概ね高い評価でした。																																
地域人権教育事業	【4】・地域教育人権事業の実施校と具体的な取り組み事例を教えてください。A評価であるが、特に学校・家庭・地域の連携・協働の視点においてはどのような工夫があったのか。		令和4年度は、7中学校区の全てで実施しております。各校区ごとにテーマや学習計画を設定し、それに基づき年間を通して学習会（座学）や現地学習を実施し、学びを深めました。学習の取組について、文化祭などの場において学習の成果をまとめたものを掲示したり、考えや思いをステージ発表したことで地域や家庭（保護者）と共有することができました。																																
住民人権学習推進員研修会	【5】・研修の出席率が過半数を下回っているが、それでもA評価とした理由はなぜか。人権学習推進員の担い手がおらず、他の役職との兼職であるという話を聞くが、推進員の目的を果たしているか。兼職ではない推進員は全体の何割なのか。自治会の担い手不足の現状を踏まえると、生涯学習関連においては、人権学習推進員や公民館主事等の役職を統合するなどの検討が必要であると思うが、その点はどこをどう考えているのか。自治会単位での研修会の住民数に対する参加率や、参加者の年代・性別ごとの参加率を知りたい。今後は自治会単位ではなく、自治協議会単位での研修事業の充実など、自治会活動の負担軽減を考える必要があると思うが、その点はどうか。		研修会の出席率は48.2%でしたが、欠席者へのフォローを行っており、住民人権学習実施率自体が回復したことにより、当該評価としました。 一人ひとりの人権が保障され、幸せに暮らせるまちの実現に向けては、自治会という身近な場・機会で人権について学んでいただくことは大切であると考えております。主体的に自治会で人権学習活動を進めていただくように、推進員さんへの説明会や研修会の開催、情報提供や活動メニューの提供など具体的な活動の支援をしています。 令和4年度は、398名の人権学習推進員に就任いただいておりますが、推進員さんが他の役職と兼務であるかどうかの把握はしておりません。役人の担い手不足や自治会活動の負担軽減については、地域づくりの視点から検討する必要があると考えています。 なお、令和4年度の自治会における住民人権学習会の実施状況について全体結果は下記のとおりです。（自治会単位での詳細な把握は行っておりません。） 【参加者数】4,922人 【性別】男性68.8%、女性30.8%、不明0.4% 【年代別】19才以下：0.9%、20～30代：6.3%、40～50代：32.6%、60才以上：59.8%、不明：0.4%																																
人権歴史講座	【6】・参加者の年代別、性別、地域別の参加率を知りたい。		参加者アンケート結果より 【年代別】 <table><tr><td></td><td>1回目</td><td>2回目</td><td>3回目</td></tr><tr><td>30代</td><td>19%</td><td>10%</td><td>—</td></tr><tr><td>40代</td><td>16%</td><td>17%</td><td>12%</td></tr><tr><td>50代</td><td>22%</td><td>33%</td><td>6%</td></tr><tr><td>60代</td><td>34%</td><td>27%</td><td>59%</td></tr><tr><td>70代以上</td><td>9%</td><td>13%</td><td>23%</td></tr></table> 「性別」「地域別」の把握はしておりません。		1回目	2回目	3回目	30代	19%	10%	—	40代	16%	17%	12%	50代	22%	33%	6%	60代	34%	27%	59%	70代以上	9%	13%	23%								
	1回目	2回目	3回目																																
30代	19%	10%	—																																
40代	16%	17%	12%																																
50代	22%	33%	6%																																
60代	34%	27%	59%																																
70代以上	9%	13%	23%																																
じんけんセミナー	【7】・参加者の年代別、性別、地域別の参加率を知りたい。	参加者アンケート結果より 【年代別】 <table><tr><td></td><td>1回目</td><td>2回目</td><td>3回目</td></tr><tr><td>20代</td><td>4%</td><td>20%</td><td>3%</td></tr><tr><td>30代</td><td>8%</td><td>29%</td><td>21%</td></tr><tr><td>40代</td><td>19%</td><td>23%</td><td>12%</td></tr><tr><td>50代</td><td>46%</td><td>14%</td><td>34%</td></tr><tr><td>60代</td><td>19%</td><td>12%</td><td>24%</td></tr><tr><td>70代以上</td><td>4%</td><td>2%</td><td>6%</td></tr></table> 「性別」「地域別」の把握はしておりません。		1回目	2回目	3回目	20代	4%	20%	3%	30代	8%	29%	21%	40代	19%	23%	12%	50代	46%	14%	34%	60代	19%	12%	24%	70代以上	4%	2%	6%					
	1回目	2回目	3回目																																
20代	4%	20%	3%																																
30代	8%	29%	21%																																
40代	19%	23%	12%																																
50代	46%	14%	34%																																
60代	19%	12%	24%																																
70代以上	4%	2%	6%																																
料理教室	【8】・参加者の年代別、性別、地域別の参加率を知りたい。外国人の参加者は何名か。	参加者アンケート結果より 【年代別】 <table><tr><td></td><td>1回目</td><td>2回目</td><td>3回目</td></tr><tr><td>10代</td><td>5%</td><td>—</td><td>15%</td></tr><tr><td>20代</td><td>19%</td><td>6%</td><td>—</td></tr><tr><td>30代</td><td>5%</td><td>—</td><td>8%</td></tr><tr><td>40代</td><td>14%</td><td>6%</td><td>—</td></tr><tr><td>50代</td><td>19%</td><td>12%</td><td>—</td></tr><tr><td>60代</td><td>14%</td><td>38%</td><td>23%</td></tr><tr><td>70代以上</td><td>24%</td><td>38%</td><td>54%</td></tr></table> 「性別」「地域別」の把握はしておりません。 1回目（和菓子づくり）において、3人の外国人の方の参加がありました。		1回目	2回目	3回目	10代	5%	—	15%	20代	19%	6%	—	30代	5%	—	8%	40代	14%	6%	—	50代	19%	12%	—	60代	14%	38%	23%	70代以上	24%	38%	54%	
	1回目	2回目	3回目																																
10代	5%	—	15%																																
20代	19%	6%	—																																
30代	5%	—	8%																																
40代	14%	6%	—																																
50代	19%	12%	—																																
60代	14%	38%	23%																																
70代以上	24%	38%	54%																																
男女共同参画講演会	【12】・参加者の年代別、性別、地域別の参加率を知りたい。	参加者アンケートを実施しておりますが、「年代別」、「性別」、「地域別」の把握はしておりません。																																	
男女共同参画推進員研修会	【13】・男女共同参画推進員の担い手がおらず、他の役職との兼職であるという話を聞くが、推進員の目的を果たしているか。兼職ではない推進員は全体の何割なのか。自治会の担い手不足の現状を踏まえると、生涯学習関連においては、男女共同活動推進員や公民館主事等の役職を統合するなどの検討が必要であると思うが、その点はどこをどう考えているのか。自治会単位での研修会の住民数に対する参加率や、参加者の年代・性別ごとの参加率を知りたい。今後は自治会単位ではなく、自治協議会単位での研修事業の充実など、自治会活動の負担軽減を考える必要があると思うが、その点はどうか。	令和4年度は、市内279自治会386人が男女共同参画推進員に就任いただいております。男女共同参画社会の実現に向けては、自治会という市民の身近な場・機会での男女共同参画の取組を進めていただくことが大切です。推進員さんに活動を進めていただくための説明会や研修会の開催、男女共同参画に関する情報提供や活動メニューの提供など具体的な活動の支援をしています。67自治会延べ96回の学習会や啓発事業が実施されました。自治会長が推進員を兼務されているのは22自治会ですが、他の役職と兼務であるかどうかの把握はしておりません。役員の担い手不足や自治会活動の負担軽減については、地域づくりの視点から検討する必要があると考えています。																																	

対象事業	質問項目	担当課	回答	備考
男女共同参画推進事業補助金	【14】・具体的な取り組み事例を教えてください。		令和4年度の取組実績は、広報誌の発行、講演会や研修会の開催、料理教室の開催、啓発看板の製作と設置、座談会などです。	
男女共同参画基礎講座	【15】・参加者数を評価の1つとしていていると思われるが、目標は何人を想定していたのか。その上でA評価とした理由を伺いたい。		各回、定員16人の設定としておりました。 評価については、参加者アンケート結果による満足度などから該当評価としております。（満足度80%以上と回答した割合が、1回目：57.4%、2回目：83.4%、3回目：100%）	
丹波市文化協会総合文化祭	【26】・総合文化祭は、開催のお知らせがあまり市民に行き届いておらず、関係者だけの催しである印象がある。文化協会関連でどの程度の予算がかかっているのか知りたい。各団体の団体数及び活動人数を知りたい。		総合文化祭の開催については、HP、行政無線、公共施設へチラシを設置し、告知している。もっと市民に行き届くように市広報、新聞折込なども検討する。 ・加盟団体数 145団体 ・会員数 2,024人 ・総合文化祭に係る経費（R5：160,000円）	
文化芸術サロン	【28・29・30】・参加人数を見ると継続が難しいのではと感じる講座があるが、参加対象者のニーズをどのように把握しているのか。広報を強化も必要であるが、ニーズの把握や開催時期・開催場所の見直し・企画内容の見直しが必要であると感じるがどうか。	文化・スポーツ課	「子育てアートサロン」は、未就学児の親子を対象とした事業で、子育て学習センターの指導者と相談し、日時、講師、内容を決めて実施している。 「アートのスペース」については、丹波アートコンペティションの審査員を講師として、実行委員とも相談し、日時、講師、内容を決めて実施している。 「はじめの一步」講座は、物づくり（アート創作）体験、楽器体験など文化芸術に係る内容の講座で、ニーズの把握については、アンケートをとっているため、アンケートを参考に参加しやすい時期なども含めて検討していきたい。 また、積極的に市広報、SNS、新聞広告等を利用して、参加者を増やす広報活動を行っていく。	
丹波市クォーターテニス大会	【34】・D評価で成果を得られてないという結果であるが、継続としたのはなぜか。クォーターテニスを選んでいる理由はなぜか。		平成16年頃よりバドミントンコートを利用し手軽に始められるニュースポーツとして、丹波市スポーツ推進委員会でクォーターテニスの普及に取り組んできた。継続した取り組みの成果として令和元年に地域住民によるクォーターテニスサークルが設立されたことから、更なる拡大を目標に推進している。 ※令和2・3年度は、コロナウイルス感染拡大の影響により、年に2回開催していた大会を中止した。令和4年度においては、中止と延期を検討しながら、感染症対策を行い1回のみ大会を開催したが、参加者が少なかったためD評価とした。	
3市連携互近助サミット	【44】・A評価であるが、「多様な学びの活動をつなぐネットワークの推進」、「学びの成果を活用する仕組みづくり」、「市民活動団体やNPOへの支援」、「学校・家庭・地域の連携・協働」、「地域で子ども・若者を育てる地域づくり」の視点において、それぞれどのような工夫や成果があったのか。		「多様な学びの活動をつなぐネットワークの推進」「学びの成果を活用する仕組みづくり」の視点では、研修会の中でのグループワーク、意見交換を通して、他市の地域とのネットワーク構築に繋がったり、各地域の取り組みを伝える場を設けることができた。また、研修会を通して学んだことを各地域の地域づくりに繋げる機会となった。「市民活動団体やNPOへの支援」「学校・家庭・地域の連携・協働」「地域で子ども・若者を育てる地域づくり」の視点については、今回の研修会の中では触れることができなかった。	
丹波市活躍市民によるまちづくり事業応援補助金	【49】・A評価であるが、「より高い学びに移行する仕組みづくり」の視点において、どのような工夫や成果があったのか。		補助金交付全団体を対象とした活動報告会を開催し、活動内容の発表や、グループに分かれて意見交換や情報交換を行う場を設けた。他団体とのつながり作りや今後の活動へのヒントを得られる機会となった。	
生涯学習・市民活動団体情報発信	【50】・事業評価するにあたり、指定管理者へのヒアリングをしているのか。今後どのような情報発信をするのか指定管理者と共有していることはなにか。		指定管理業務全般についてのヒアリングは実施しているが、事業評価を行うにあたってヒアリングはしていない。情報発信については、市民活動につながる内容や市民活動支援センター事業、指定管理者独自の事業について、市広報、ホームページ他SNSを活用した発信、周知を行うことを共有している。	
TAMBAシニアカレッジ	【56】・テーマ別講座については、単に参加者数で評価するだけではなく、どのような成果（アウトカム）があったのかで評価することが必要である。テーマ別講座の受講生について、受講後の地域での活動について知りたい。		TAMBAシニアカレッジテーマ別講座については、参加人数が9名と当初の定員（40名：2コース）から大きく下回る結果となりましたが、テーマ別講座で学んだ方が当講座参加をきっかけに、地域高齢者学級とのつながりができ、現在ではクラブ長として活躍をされている。 また、本講座で自身が代表を務める環境活動についての紹介をされた方については、令和5年度もTAMBAシニアカレッジラジオ講座の講師を行うなど、学びの成果を生活の中で発揮されている事例もあるため、参加人数こそ少なかったが、一定の評価をしている。	
丹波市社会教育関係団体補助金	【59】・具体的にどんな取り組みをしているか。	市民活動課	当課が交付している団体「丹波市子ども会育成協議会」においては、以下のような事業を実施しておられます。 市内単位子ども会への ・情報発信 ・安全共済会（傷害保険）一括登録事務 ・丹波市子ども会育成協議会わくわくオセロ大会開催 ・兵庫県子ども会連合会理事 ・丹波市子ども会育成協議会自主事業（R4年度は実施なし）	

対象事業	質問項目	担当課	回答	備考
自治公民館活動補助金	【65】・研修会の参加率はどうか。自治会の担い手不足の現状を踏まえると、生涯学習関連においては、人権学習推進員、男女共同活動推進員、公民館主事等の役職を統合するなどの検討が必要であると思うが、その点はどうか。自治会単位での研修会の住民数に対する参加率や、参加者の年代・性別ごとの参加率を知りたい。今後は自治会単位ではなく、自治協議会単位での研修事業の充実など、自治会活動の負担軽減を考えると必要があると思うが、その点はどうか。		研修会全体の参加率は46.4％（139自治公民館）です。 なお、1自治公民館に2名の参加があるところもございましたので、参加者数は合計144名です。 各地域の参加率については以下のとおりです。 柏原地域：61.5％（16自治公民館） 氷上地域：47.8％（33自治公民館） 青垣地域：34.0％（16自治公民館） 春日地域：41.6％（20自治公民館） 山南地域：44.6％（25自治公民館） 市島地域：54.7％（29自治公民館） 自治会ごとの事業の参加人数は、補助金実績報告の際に記載いただいているが、項目が膨大であり、また、全事業について把握をしていないため、お示しが出来ません。 自治会ごとの研修会の年代、性別ごとの参加率についても把握をしておりません。 自治会内の役職について、負担軽減等も鑑み、検討する必要があるかと思いますが、現在具体的な方針はありません。 しかしながら、市民活動支援センター、社会教育文化財課と連携し、自治会ごとの市が求める役職を整理し、現在協議を行っております。 また、研修会等の充実については、公立公民館のない丹波市においては自治会ごとに実施していただいている自治公民館活動は住民にとって最も身近なまなびの場であると認識しております。しかしながら、今後の人口減少による担い手不足が進む地域もありますので、地域の拠点としての自治協議会との連携を図りながら、負担軽減も含めた学習活動の在り方の整理は必要であると考えます。	
市民活動支援センター運営	【69】・事業評価するにあたり、指定管理者へのヒアリングをしているのか。A評価であるが、「市民がつくる学びの機会の提供」、「多様な学びの活動をつなぐネットワークの推進」、「学びの成果を活用する仕組みづくり」、「より高い学びに移行する仕組みづくり」、「学校・家庭・地域の連携・協働」、「地域で子ども・若者を育てる地域づくり」の視点において、それぞれどのような工夫や成果があったのか。		指定管理業務全般についてのヒアリングは実施しているが、事業評価を行うにあたってヒアリングは行っていないが、「市民がつくる学びの機会の提供」、「多様な学びの活動をつなぐネットワークの推進」、「学びの成果を活用する仕組みづくり」、「より高い学びに移行する仕組みづくり」、「学校・家庭・地域の連携・協働」、「地域で子ども・若者を育てる地域づくり」については、大交流をはじめとした市民活動支援センターの各事業により実施している。	
簡単にわかりやすい丹波市の財政講座	【70】・実績なしとのことだが、それを踏まえて評価をしていないのはなぜか。	財政課	評価の記載が漏れており、申し訳ありませんでした。 以下のとおり追記させていただきます。 【○担当部署の自己評価】 ・本事業は、これまで地域、自治会、各種団体等から出前講座の依頼を受けて実施するものとしていますが、近年はコロナの影響のみならず、そもそも市の財政状況に対する関心が高くないことも実績がない要因の一つと推測します。 今後においては、市ホームページや広報等を通じて本事業を積極的に周知し、知っていただき、関心を持っていただくことが優先であり、重要と考えています。 関心を持っていただき、現状や将来の方向性を知っていただくことにより、地域、団体等の効果的な活動や運営につながるものと考えます。 【●自己評価に基づく課題】 ・依頼や申出を待つのみではなく、工夫した周知と積極的に講座の機会を設けるための方法、手段の工夫 ・地域や団体が市の財政状況を知ろうとする、理解する必要がある、知りたい、理解したいと気づいてもらう方法 ・わかりやすい資料の工夫	
ひょうご防災リーダーの養成	【79】・A評価であるが、具体的な実施内容、当初の目標、実施後の成果を教えてください。その上でA評価とした理由を知りたい。また、「より高い学びに移行する仕組みづくり」の視点において、どのような成果を目指しているのか。	くらしの安全課	令和4年度のひょうご防災リーダー養成講座丹波地域版は、7月～9月に丹波篠山市、丹波市で計4回開催され、参加者約50名のうち、丹波市民が34名。講座終了後、丹波市防災会の研修会を案内し、14名が参加。その後丹波市防災会に6名が入会され、ここ10年の間では、一番新たな防災指導者を育成、確保できました。令和5年度からは防災訓練の訓練指導をお世話になっています。今後も各々の訓練指導の得意分野での指導技術を向上してもらえよう、小中学校、自主防災組織からの訓練指導依頼との適切なコーディネートに努めます。	
災害時要援護者避難支援体制の構築	【82】・自治会長の参加率はどのようであったのか。名簿の更新はすべての自治会で実施されたのか。		①4地区は自治協議会主催で自治会長の出席率は100％です。名簿の更新は市に支援申出をされている約1,000名の方が対象で、半数500名ほどの名簿内容の更新をしています。自治会により対象者がいない自治会もありますので、全自治会ではありません。	
手話奉仕員養成講座	【95】・「より高い学びに移行する仕組みづくり」の視点において、どのような成果を目指しているのか。	障害福祉課	手話講座については、手話奉仕員養成（入門課程、基礎課程）、手話通訳者養成（通訳Ⅰ、通訳Ⅱ）と段階を踏み、手話通訳者（全国統一試験合格者）の養成を目指している。	
手話通訳者養成講座	【96】・「より高い学びに移行する仕組みづくり」の視点において、どのような成果を目指しているのか。		手話講座については、手話奉仕員養成（入門課程、基礎課程）、手話通訳者養成（通訳Ⅰ、通訳Ⅱ）と段階を踏み、手話通訳者（全国統一試験合格者）の養成を目指している。	
要約筆記者養成講座	【97】・「より高い学びに移行する仕組みづくり」の視点において、どのような成果を目指しているのか。		要約筆記者講座については、パソコン要約筆記者養成（前期課程、後期課程）と段階を踏み、要約筆記者（全国統一試験合格者）の養成を目指している。	
出前健康教室	【98】・「学校・家庭・地域の連携・協働」の視点において、どのような成果を目指しているのか。		令和4年度の出前健康教室は、コロナ感染拡大防止のため積極的な働きかけは実施しませんが、コロナ禍によるメンタルヘルスへの影響にも触れ、要望に応じて健康づくりの講話、健康チェック等を実施しました。地域住民が参加される教室ですので、各年代を意識した講話内容にしており、家庭の子どもの視点も取り入れて、家族で健康について話し合う機会になるよう実施しています。	
ぐっすり・すやすや運動	【99】・「学校・家庭・地域の連携・協働」の視点において、どのような成果を目指しているのか。	健康課	ぐっすりすやすや運動として、令和4年度は各種健康教室、健康診査における睡眠指導を実施し、さらに小学生やその保護者への睡眠授業やこども園、子育て学習センターでの睡眠講座を実施しました。小学校からの睡眠授業の依頼はコロナ禍でもあり4校と少なかったですが、子どもたちの課題を学校現場とも共有して授業づくりを目指しています。また子どもを通じて家庭で睡眠について考える機会になるよう実施しています。	

対象事業	質問項目	担当課	回答	備考
食育推進事業	【100】・「学校・家庭・地域の連携・協働」の視点において、どのような成果を目指しているのか。		令和4年度の食育推進事業は、健康づくり推進協議会にて各所属の代表者や一般公募の委員により地域の課題解決に向けそれぞれに果たす役割を共有しています。また、地域活動をされているいずみ会の協力も得て、こども園から高校まで食育教室を開催しています。郷土の食材にも触れて、児童生徒の学習に広がりや深まりを持たせることを意識しています。また、複数のいずみ会員等と協力することで個別、グループ対応がしやすくなり、児童生徒に達成感を味あわせることも意識しています。	
子育て学習センター事業	【102】・子育て学習センターは家庭教育支援を担う拠点ではあるが、乳幼児以降（小中高）の子育て世代に対するきめ細かいサポートをするには各地域（小学校区）ごとに家庭教育支援チームのような支援のためのグループづくりが必要であると思うが、どのように考えているのか。		子育て学習センターは、主に未就学児（特に未就園児）とその保護者を対象にしており、仲間づくりのサークル活動支援を行うとともに子育て支援を行うピアサポーターを旧町域で設置している。小中高の保護者はターゲットにしていなかったため、子育て世代のグループづくり等は考えていない。	
児童館事業	【103】・「学校・家庭・地域の連携・協働」の視点において、どのような成果を目指しているのか。	子育て支援課	地域住民と子どもに関わる関係機関等と連携することで、保護者にとつての相談場所やよりどころとなり、子どもにとつての居場所や相談できる場所としての役割を果たせる重要な拠点となるよう努める。現時点では、地域の学校と連携し学生ボランティアの受け入れや、行事への参加に取り組んでいる。	
家庭教育講座	【104】・「学校・家庭・地域の連携・協働」の視点において、どのような成果を目指しているのか。男女共同参画センターにおいても男性に向けた講座を開催しているが、同センターとの連携はどのように考えているのか。		地域の「人」「自然」「もの」「知恵」をいかし、親と子どもの「育ち合い」（共育）、多様な価値観に基づく「分かち合い」（共生）の視点から学習機会や情報の提供、相談体制の充実に努める。男女共同参加センター等と相互に情報共有を図りながら、共同開催するなど父親の子育てへ参画する意識を養う事業ができれば良いと考える。	
たんばふるさと学	【108】・「たんばふるさと学」で学校の授業に携わった地域住民の年代別・性別ごとの参加率を知りたい。年代・性別による偏りや課題はあるのか。住民の一人として学校へのハードルが高いと感じているが、その点についてはどのような取り組みを考えているのか。	学校教育課	地域住民の方の年代・性別については、把握できておりません。地域学校協働活動推進員や学校支援コーディネータの方と連携し、地域の方々に関わっていただきやすい体制づくりに取り組んでいます。	
丹波市社会教育関係団体補助金	【109】・丹波市における社会教育の発展を図ることが目的であるが、実施内容はPTA連合会のへの研修事業のみであり、社会教育の範囲としては限定的であると感じる。目的と一致しているのか。		丹波市社会教育関係団体補助金交付要綱に基づき、補助金を交付している団体のうち、社会教育・文化財課が所管しているのが丹波市PTA連合会になります。当該団体の活動は目的の達成に資する活動を展開していると判断しています。	
地域学校協働活動	【110】・地域学校協働活動推進員の配置が進まない理由はなぜか。特に配置は進まない地域はどこであるのか。		コーディネーター役の人材育成・人材確保と、事業の周知や類似事業との調整が課題だと捉えています。コーディネーター役の人材が選定できた地域から順次配置している段階であり、特定の地域だけ配置が進んでいないという考え方ではありません。	
地域から考える学びの未来会議	【111】・学びの未来会議にはどのような対象が参加しているのか。活動の様子が見えず、情報発信が不足していると感じるがその点はどうか。	社会教育・文化財課	学校運営協議会委員や学校支援コーディネーター、教職員、社会教育委員、地域学校協働活動推進員や地域コミュニティ活動推進員等、教育に関わる多様な皆様に参加していただいています。これまでの取り組みの紹介や新たなターゲット層にアプローチする等、事業周知・情報発信の強化に努めます。	
歴史講座	【112】・参加者の年代別・性別ごとの参加率を知りたい。年代・性別による偏りや課題はあるのか。		男女別の参加率は、男性74％、女性26％です。男女とも参加者は40代以上で、男性では70代が63％で一番多く、60代が19％、女性は70代が50％、60代が42％となっています。仕事をリタイア後に歴史を知りたいと思われる方が多く、若い世代や現役世代の参加がほとんどないため、この世代にも地域の歴史に興味を持ってもらうことが課題です。	
氷上回廊水分れフィールドミュージアムの運営	【116】・出前授業・出前講座はどのような場所で開催されているのか。	水分れFM	市内小・中学校や高等学校への出前授業を行っています。また、氷上回廊水分れフィールドミュージアム友の会やホトケドジョウを守る会等と連携した出前講座を市内で開催しています。	
図書館管理運営事業	【117】・A評価であるが、「多様なニーズに合わせた学びの場づくり」、「学びの成果を評価する仕組みづくり」の視点において、それぞれどのような工夫や成果があったのか。		自らが学ぶ「文学講座」、子どもに対する読み聞かせを推進するための「子ども読書推進講座」「ブックスタート」、読書体験を共有する「ビブリオバトル」といった多様な学びの場を提供している。学びの成果を評価する仕組みづくりとして事業実施後アンケートやヒアリングで成果を確認しています。	
子ども司書養成講座	【118】・子ども司書認定後のフォローはどのようにおこなっているのか。地域との連携における課題は何か。A評価であるが、「指導者・リーダの養成」の視点において、どのような工夫や成果があったのか。	図書館	認定後は図書館で開催するおはなし会について参加意向を確認しています。しかしながら時間の経過とともに参加が減っているのが課題と考えています。子ども司書養成講座は図書館職員が講師を務めておりますが、毎年講座内容を振り講座資料や指導の手法をブラッシュアップし、指導者・リーダーとして実践できるスキルを習得できるよう工夫しPOP制作や読み聞かせの技術習得の成果が見られた。	
市民との協働運営	【119】・図書館サポーターとして実際に活動をしている方の世代別・年齢別の割合を知りたい。図書館サポーターとして活動できる分野が限定的で、幅広い世代に参加しやすい活動ではない部分があると思うがどうか。また、A評価であるが、「地域の人材の活用する仕組みづくり」、「指導者・リーダの養成」の視点において、それぞれどのような工夫や成果があったのか。		図書館サポーターの年齢を把握していませんが、定期（平日）に活動しているサポーターの年齢層は比較的高いと考えています。今後は週末に行うイベントサポート等、活動分野・時間帯の拡充が課題であると考えています。地域人材の活用、ならびに指導者・リーダの養成のため「図書館サポーター養成講座」を継続開催しています。	
化石発掘体験	【121】・来訪者数が目標を大幅に超えているが、目標を見直す必要はないのか。来訪者の地域別の割合を知りたい。	恐竜課	令和4年度は新型コロナウイルスによる行動制限があった中で、来訪可能な近隣からの来館者が多く見られ、さらにテレビで取り上げられたこともあり、夏期特別展の時期には例年以上に来館者が増加した経緯があるため、目標値は現実的で妥当と考えます。来館者数の地域別の割合は集計をしていないので、把握ができていません。	
ちーたんの館運営管理	【122】・来訪者数が目標を大幅に超えているが、目標を見直す必要はないのか。アウトリーチによる学習プログラムは実施していないのか。		令和4年度は新型コロナウイルスによる行動制限があった中で、来訪可能な近隣からの来館者が多く見られ、さらにテレビで取り上げられたこともあり、夏期特別展の時期には例年以上に来館者が増加した経緯があるため、目標値は現実的で妥当と考えます。現在、学習プログラムとして市内の小学校を対象に出前学習を実施しています。	
小学生下水道出前講座	【126】・A評価であるが、「学校・家庭・地域の連携・協働」の視点において、どのような工夫や成果があったのか。	下水道課	「正しい下水道の使い方」と題した出前講座を小学生の児童を対象に13校で実施した。また、学習した児童が学習内容を家庭に持ち帰ることで、保護者や地域に伝わり、下水道機能の維持と快適な生活環境の向上につなげることができた。	
高齢者を対象としたスマホ教室	【127】・各会場における参加者数はどうだったのか。どの程度のスキルを身につけることを目標なのか。それを踏まえたうえで、目標としているスキルをどの程度の方が身につけることができたのか。	総合政策課	令和4年度は3回実施し、計60名が参加された（内訳：1回目 青垣住民センター 20名、2回目 山南住民センター 19名、3回目 市民プラザ 21名）。デジタルデバйд解消を目的とした事業のため、初心者が一般的なスマホ操作ができる程度を目指した。取得したアンケートによると、理解度は個人のももとの操作状況やレベルによってまちまちで、覚えるためには、何回も同じ授業を受けたいといった声がよく聞かれた。	